

# 月歩学歩

“月日を歩き、学んで歩く” 明德の「今」を伝える月刊誌「げっぽがっぽ」

学校から現場へ  
現場から学校へ

## 特集

教育実習Ⅱを終えて (P.4-7)

アクティブ・ラーニング・ウィークの  
取り組みについて (P.8-11)

- ・障害者スポーツ大会 (P.12)
- ・めいトーク保育講座 (P.13)
- ・月歩学歩学生委員ページ (P.14-15)
- ・教員からのおすすめ (P.16)
- ・!hot news! (P.17-18)





# 学校から現場へ



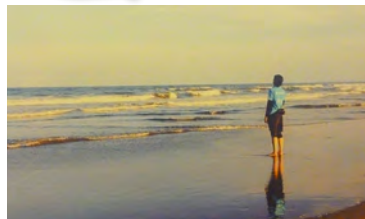
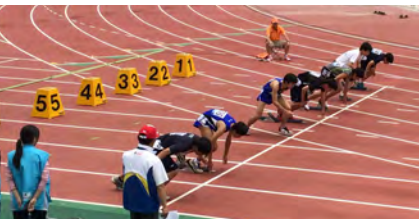
「体験から学ぶ」

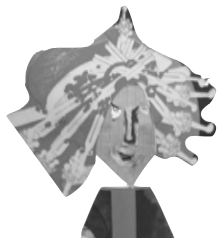
これは、明德で大切にしていることです。

学校の教室で学ぶ理論はもちろん大切。でも、それだけではわからないこともある。

だって子どもは一人ひとり違う。そしてそんな子どもと関わるあなたも唯一無二。だから、そんな一人ひとりが関わり合う時には、自分と相手と向き合って考えるしかないんです。

そしてそうして悩んだ時、学校の机で学ぶ勉強が、身にもなるのです。そんな、学校と保育現場との交流をテーマとした月歩学歩第3号です。





今回の特集では、学生たちが学校からさまざまな場へ出向いた内容を取り上げます。

2年生は、初めて3週間という期間を幼稚園で過ごす教育実習Ⅱを、1年生は、自分の興味や関心に基づいて選択した現場体験「アクティブ・ラーニング・ウィーク」を終えました。

今回は、そのようにそれぞれの学年が学校から現場に飛び出て経験したこと、そしてその後学校で深めた学びを次ページからお伝えします。



# 現場から学校へ







! 2年生!

特集

## 教育実習IIを終えて

教育実習II担当 伊藤 恵里子

6月下旬、3週間の幼稚園実習を終えた2年生が学校に戻ってきました。学生たちは、実習前よりも少し大人になったような、しっかりした表情に見えました。実習中のさまざまな出来事や子どもの様子を話し出して止まらない学生や、実習が楽しかったと感じた学生が多く、まずはそのことを嬉しく思います。

さて、実習後には「実習事後指導」という授業があり、本学ではそれをととても大事にしています。事後指導では、自身の実習をふりかえり、そこで学んだことを学生同士で伝え合い、学び合います。そして、改めて自身の学びをレポートにまとめ、7月12日には発表会が行われました。発表会では、それぞれの発表に対して質疑応答も行われ、実習で自分自身が身を持って感じたからこそ言える意見が飛び交い、その成長した姿を見てまた嬉しく思いました。ここでは2名の学生のレポート（一部抜粋）を紹介し、発表会をふりかえりたいと思います。

実習（体験）を通して子ども（人）をどう理解したか

否定的に声かけをしてもいいので、出来ている子を褒めてあげることも褒めて欲しいと思ってより頑張ってくれたりする。

実習や体験で見られた自身の良さや課題

大勢の子供もたちの前で子供もたちを引きつけられる様な声かけが出来る様にしたいです。

の実習に向けて、何をどうしていくか

子供もたちを引きつけられる声かけをする。



## 「子どもの気持ちを受け止める」 石井 愛咲美

---

ある日、ザリガニ釣りが行われました。釣れる子もいれば、なかなか釣れない子もいました。保育者や私は、釣れた子には「すごいね、やったね」と嬉しさを共感しながら声を掛けました。釣れない子には「じっと待つんだよ」と頑張れるような声を掛けました。最後まで釣れない子もいて、とても悔しがっている様子がありました。Cちゃん（5歳児）はそのうちの1人でした。保育室に戻ると、釣れた子たちは嬉しそうに「〇匹釣ったよ！」と話していました。Cちゃんはその様子を見て泣き出してしまいました。きっと、さらに悔しい気持ちが増してしまったのかなと思いました。私はCちゃんに「悔しかったね。でも釣れる時もあるんだよ。次は釣れるかもしれないよ」などと気持ちを切り替えることができるといいなと思い声を掛けていましたが、Cちゃんは泣いたままでした。その時保育者は、Cちゃんにたくさん泣く時間を作ってあげていました。泣くことでCちゃんは悔しい気持ちと向き合い、戦っていたんだなと思いました。“悔しい”という気持ちを感じることができるようになっていたのだなと思いました。私は気持ちを切り替えられるよう声を掛けていましたが、Cちゃんにとってはそれは受け止めにならなくて、自分の気持ちと向き合い、泣いて吐き出すことのほうがよかったんだなと思いました。言葉掛けも大切ですが、その時の子どもの状況に応じて子どもの気持ちをよく考えてかかわっていかないといけないと思いました。

石井さんの発表後には、「全員が釣れるような環境構成はあったのかな？」「悔しい思いをすることもねらいだったのかも」「子どもが挫折する機会も大事なこともかもしれない」など、さまざまな意見が挙がりました。



## 「S君との遊びの中で」 庄司 美春

S君（4歳児）は段ボールで作ったパソコンを持って、すべり台に1人で座っていました。S君は「船に乗っているんだ」と言いました。少しその場を離れ、またS君と船（すべり台）に戻るとバケツが置いてあり、「泥棒が来たのかも」と小声で言いました。泥棒に船を盗られてしまったので新しい船を探しに行くことにしました。2艘目は園庭の木の遊具で、その船を漕いでいるとS君は「お買い物に行こう」と言いました。一緒に行くと、倉庫の裏をジャングルに見立て、「今ここはライオンがいる。静かに歩こう」と言い、まるで本当にその場にいるかのようでした。ジャングルから戻るとまた船を盗られており、するとS君は「パソコンで調べるから待ってね」と言って、待っていると「いいところあったよ」とまた違うすべり台を船として、やっとゆっくりできる場所を見つけ、旅の続きをして一緒に船を漕いで幼稚園に戻りました。私はS君と遊ぶ中で、遊びが繋がっていると思いました。そして、子どもって本当に想像力が豊かだと思いました。

庄司さんの発表は、S君の遊んでいる様子が頭に浮かび、聴いている私たちもとても微笑ましくなりました。学生の、子どもの捉え方がとても素敵だと思います。





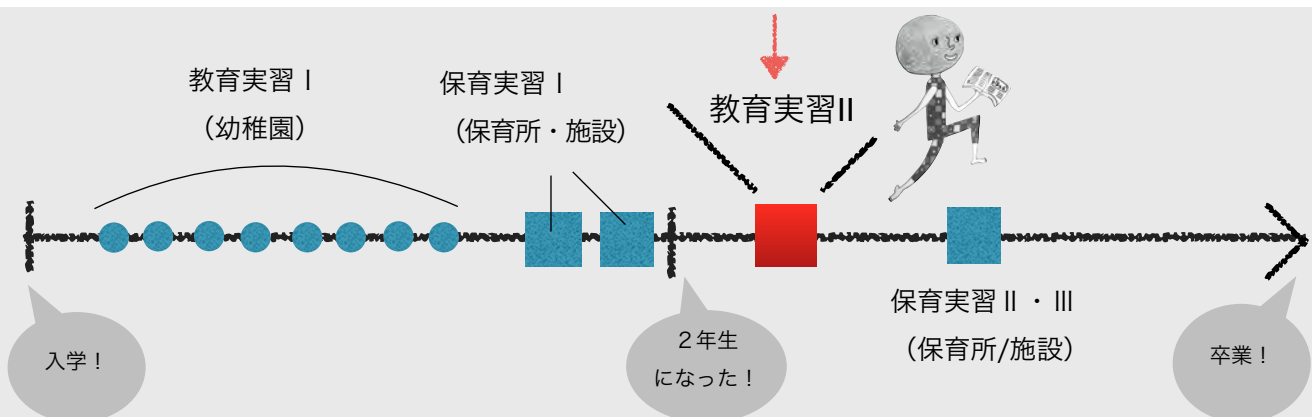
最後になりますが、発表会には学生が実習した幼稚園から3名の先生方が参加してくださいました。ある先生からは、発表会の最後にこんな言葉をいただきましたので、皆さんに紹介したいと思います。

「実習後に学んだことを発表したり、それを皆で分かち合っていることを知って、とても頑張っていることがわかりました。学生のうちしかできないことなので大事にしてほしいと思います。自信を失くしたという発表がありました。大丈夫ですよ。自信満々な人よりもね。子どもが自信を失くす場面に出会った時、その気持ちをわかる人であってほしいです。子どもと共に成長する保育者になってほしいです」

先生方、お忙しい中お越しくださり、ありがとうございました。また、実習にご協力いただいた園の皆様にも感謝申し上げます。

2年生の8・9月には保育実習Ⅱ・Ⅲがあり、学生たちはまたその実習に向かって走り始めました。私たち教職員も、学生をサポートし、そして学生と共に成長していく気持ちを忘れずにいたいと思っています。

## ..... 明德2年間での実習 .....





！1年生！

## 特集

# アクティブ・ラーニング・ウィークの 取り組みについて

総合演習担当 石井 章仁



## 1. 取り組みの目的

明徳の2年間では、2年生のフィールドワーク（わくわく体験研修）をはじめ、現代社会論でのフィールドワーク、ゼミや各教科での体験学習など、実習以外で、現場体験をする機会が多くあります。しかし、意欲的に参加しない学生も増えてきました。これは、子どもとはかかわりたいという思いを持ちながらも、実習に不安を感じたり実習を心から楽しめなかったりする学生が多くいることとも共通します。また、ボランティア等にも行ってみたいと思いながら、なかなか気軽に現場に足を運ばなかったり、自分から見つけるのが苦手だったり、実習外での体験を躊躇する方も少なからずいます。

しかし、2年後の「就職」を考えた時、それまでの2年間で、実習以外にもいろいろな現場に足を運び（保育現場に限らず）、いろいろな人や子どもとかかわる経験が多くあることは、学生皆さんの選択の眼を養い、選択の幅を広げると共に、その体験の1つ1つが学生の経験やスキルとして蓄積されます。

今回、7月からの教育実習Ⅰ（幼稚園）を前に、実践や現場体験等、実社会で「自ら体験をする」機会を作るために、さまざまな現場を用意し、「アクティブ・ラーニング・ウィーク」と称し、2日間の体験と振り返りのプログラムを設定しました。このプログラムの目的は、保育現場をはじめ、福祉現場、NPO、その他の活動等、さまざまな社会に出向き、体験し、そこで働く人や業務等に触れることを通して、現場での実践へ参加する意欲を涵養することです。





## 2. 日程・方法・体験の種類

### ■日程・方法

- 6月24日（水）25日（木）に、1年生の社会的参加体験と主体的な体験学習の意欲の醸成を目指した、現場への参加体験を行う。原則両日参加（土日開催のプログラムについてはおおむね1日以上）＊プログラムによっては前後の土日に入るものもある。
- 時間：4時間以上の保育・業務参加及び体験（現場やプログラムの実情に合わせて設定）
- 内容：業務の補助（時間や内容は各現場と相談の上決定する）・体験
- まとめ：体験レポートの作成及び、26日（金）にグループでの振り返り

### ■体験の種類

- A 保育現場
- B 社会福祉現場：児童養護、障がい児者施設等
- C NPO等の活動：地域のNPO、その他社会教育・文化的な様々なジャンルの活動等
- D その他教員が引率する体験プログラム：わくわく・現代社会論などのフィールドワーク体験の前哨戦となるような体験等
- E 学生が自ら開拓し希望する体験：母園や知り合いの施設・園など、申請を受け承認する
- F その他、趣旨に合致し必要と思われる体験

### 3. 体験先・プログラムと参加人数



\* 【】内は引率教員

タイプ	施設種別等	所在地	人数
A 保育現場：保育園・幼稚園・こども園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明德そでの保育園</li> <li>・明德浜野駅保育園</li> <li>・千葉明德短期大学附属幼稚園【柴田】</li> <li>・明德やちまたこども園</li> <li>・新宿区Aこども園</li> </ul>	習志野市	3名
		千葉市	1名
		学内	2名
		八街市	4名
		新宿区	1名
B 社会福祉現場：児童養護、障がい児者施設等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童デイサービス</li> <li>・児童養護施設【小久保】</li> <li>・障がい児通園施設</li> <li>・子ども未来塾+児童養護施設【山野】</li> </ul>	千葉市	2名
		館山市	6名
		長生郡	1名
		千葉市・いすみ市	3名
C 子育て支援・NPO等の活動：地域のNPO、その他社会教育・文化的な様々なジャンル等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おゆみ野カフェ（野外活動）</li> <li>・親子カフェ（子育て支援）</li> <li>・プレーパーク</li> <li>・Aリラックス館</li> <li>・Bリラックス館</li> <li>・育ちあいのひろばたいむ</li> <li>・パン、惣菜のNPO</li> <li>・フリースクール【金】</li> <li>・若い芽のαコンサート【高森】</li> </ul>	千葉市	6名
		千葉市	5名
		四街道市	2名
		千葉市	2名
		千葉市	1名
		学内	3名
		横浜市	2名
		柏市	5名
		千葉市	12名
D 教員が企画・引率したA~Cの趣旨以外の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鋸山、筑波山登山【石井】</li> <li>・房総文学散歩：木更津/市川【高森】</li> <li>・裁判傍聴【金子】</li> <li>・庭仕事+千葉~九十九里ウォーク【鶴田】</li> <li>・山手線にグルグル乗る/小湊~いすみ鉄道【片川】</li> <li>・浅草、川越散策：江戸東京博物館：古い街並み、文化財【明石】</li> </ul>	千葉・茨城	8名
		木更津・市川	6名
		千葉市	1名
		千葉~九十九里	5名
		東京・千葉	8名
		浅草・川越	12名
E 自ら開拓し希望する体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出身幼稚園</li> <li>・出身保育園</li> <li>・保育園、学童、児童養護施設、フリースペース等</li> </ul>		5名
			6名
			6名
F その他	・アドミッションセンター業務【福中】	学内	2名



#### 4. 振り返り（6月26日に実施）

保育内容演習のグループごとに分かれ、2～3限にそれぞれの体験を報告しました。そして、4～5限に体験グループごとに集まり、A3用紙2枚程度に体験を皆で考えまとめました。現在、校内に掲示しています。

アクティブラーニングウィーク活動のまとめ	活動日・時間 6月24・25日 10:30～19:00
活動場所（施設）	氏名（全員）
日本赤十字社東京分会「フリースペースえん」	木下 梨紗

### 活動の目的

## 子どもの自尊感情を育てる

### 活動の内容

「フリースペースえん」は「NPO法人アースワークスえん」が、2003年より地域の発展に貢献し、日本赤十字社東京分会の協賛のもと「活動する子どもたち」の活動拠点として「NPO法人アースワークスえん」が、2009年7月に東京都東区に学校や家庭、地域の中で活動する子どもたち、保護者の協力を得てスタートしました。2009年にNPO法人の活動を、2009年度から「財団法人社会福祉協議会」上野区、認定管理士として「財団法人子どもサポート」業務の管理運営にあっています。

「生きていくだけOK!」  
 これは大人も子供も安心して学べる場所。子どもが自分の喜びのことで失敗したとき、どうやら課題のりまの頁の紙を向かい寄り取り入れる力が身につく。あかまの扉が空いて失敗することが「学びたい」「知りたい」と伸びたかと思つた。

NPOスタッフの収入は決して多くはない。が、スタッフたちの「子どもの可能性」に目を惹かれ、情熱を注いでいることに感銘を受けた。

「先生生徒」の関係ではなく「個と個」の関係性を作ることができた。

アクティブラーニングウィーク活動のまとめ	活動日・時間
活動場所（施設）	氏名（全員）
千葉地方裁判所	橋本 沙耶

### 活動の目的

## 裁判権を17歳に引き下げよう!

### 活動の内容

～Q&A～  
 家庭裁判所とは？  
 家庭裁判所とは、家庭内での争いを解決するために設けられた裁判所です。主に、離婚、遺産相続、親権争いなどの家庭内争いを扱います。

17歳未満の子供の保護  
 17歳未満の子供は、法的に保護を必要とします。家庭裁判所は、子供の権利を守り、保護を促す役割を果たします。

裁判官の仕事  
 裁判官は、争いを公平に解決し、法律に基づいて判断を下す仕事を行います。

裁判官の役割  
 裁判官は、争いを公平に解決し、法律に基づいて判断を下す仕事を行います。

裁判官の役割  
 裁判官は、争いを公平に解決し、法律に基づいて判断を下す仕事を行います。

裁判官の役割  
 裁判官は、争いを公平に解決し、法律に基づいて判断を下す仕事を行います。



アクティブラーニングウィーク活動のまとめ	活動日・時間
活動場所（施設）	氏名（全員）
パンぱか（横浜）	石橋 怜子・岩井 凜

### 活動の目的

仕事の楽しさも楽し。パンの美味しさを知る。

### 活動の内容

私たちが一番伝えたいこと。  
 障がい者は何も出来ないと思わずに読んでください。  
 普通のことが出来たら褒めるのを悪いとは思いませんが、障がい者の人にとっても、私たちにとっても、普通のこと出来るのは「当たり前」のことなのです。  
 私たちは皆さんのもっているイメージを変えたいです。  
 パンぱかの人は障がいをもっていますが、毎日一生懸命皆さんの為に楽しく仕事をしています。その様子を見て私たちも一生懸命この2日間で思ったことを伝えます。

パンぱかのチラシです。  
 読んでみてください。

クラス：1歳児（トコトコ組）

## 日々成長して11ヶ月の子でもたろ

子どもたちは毎日毎日、少しずつ成長していきながら強く思いました。それを感じたのは、お片付けのとき。朝の室内遊びの片付けの時は、全く片付けられなかった。片付けのとき、お片付けのときは、先頭を走って片付けていました。その単純な事に、僕らは感動しました。そのことで先生に話したら、「同じ歳の子でも、年齢差が1年ある子もいます。そういう子は、少しお兄さんお姉さんのお返りの動きを見て、自分で真似てお片付けをする」と言っていました。日々成長して11ヶ月の子でもたろと教えました。

おもしろい



## 障害者スポーツ大会

山野 良一

今年も5月24日（日）に、1年生を中心に障がい者スポーツ大会にボランティアとして参加しました。1年生後半の施設実習に向けて、障がい者の方たちのことを少しでも知ってもらいたいという教員の願いが基になっています。しかし、その狙いを超えて色々な経験をする学生たちも多いのです。特に、障がい者の方たちの競技への取り組み具合や応援の真剣さに心打たれることが多いようです。また、ちょっとした優しさに出会い、日ごろの生活では味わえない感動に心動かされる学生もいます。今年もさまざまな体験が学生にはあったようです。



この3月に卒業した先輩にも  
会いました！



# 公開講座「めいトーク」2015

公開講座担当 片川 智子



去る6月27日(土)に「今だからこそ“遊び”を考える ～子どもの遊びを保障する保育実践とは～」というタイトルで、公開講座「めいトーク」を実施しました。主に幼稚園や保育園の先生方を対象とした講座で、100名を超える方々が参加されました。



今年4月から、子ども子育て制度がスタートし、色々な仕組みが変わってきました。同時に、「保育」とは何かということもこれまで以上に考える必要が出てきました。学生の皆さんは、きっと授業で聞いていることと思います。そこで今回の講座は、大切にしたい“子どもの遊び”についてじっくりと考えたいと企画しました。

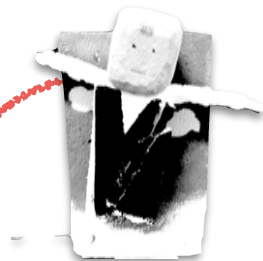
講座では、**青木久子先生**（青木幼児教育研究所主宰）、**小川博久先生**（東京学芸大学名誉教授）をお招きし、それぞれの講演とお二人の対談をお聞きしました。青木先生からは、様々な国や時代の子どもの姿が紹

介され、翻って今の日本での子どもにとって必要なことは何かをお話いただきました。小川先生からは、遊びとは相反する感情を含むアンビバレンツな体験（宙吊り体験）であり、人生そのものに通じるのだというお話をいただきました。お二人の異なる考えや、それでもやはり共通する部分など、参加者の方々も考えながら熱心に聞き入っていました。最後には、本学教員の明石現先生のギターコンサートがあり、素敵な音色で参加者を魅了しました。

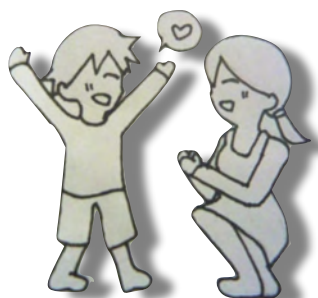
保育者になると、子どもにとっての意義を更に丁寧に考え学び続けることとなります。学生の皆さん！2年生は、来年は卒業生として、保育者として是非参加してください。1年生も、貴重な学びの場に参加してみましよう！



# 「月歩学歩学生委員」 ページ



お待たせしました！ 待望の「月歩学歩学生委員」による第1回目のページです！  
私たち保育の学生が元気になる源は、やっぱり子どもだよ！ という思いを持って、  
いろんな人にインタビューした内容です。



月歩学歩委員は、最近、疲れてきている人が多いなと感じていた  
ので、元気になれるような一言を探しました！

明短でインタビューした

## 「実習先で子どもから聞いて癒された一言」

を紹介します！

幼稚園で実習生への質問タイムの時、  
年中の女の子から  
「先生は何色の虹が好きで  
すか？」と聞かれた。7色以外あるかな…？  
と思った。（1年：内山実幸）

お母さんの絵を描く時間で、3歳の  
女の子が逆さまに描いていたので、「誰描  
いているの？」と聞いたら、  
「知らない人描いたの！」  
と言われた。お母さん描く時間なのに…。  
（1年：卯月琳）

幼稚園で5歳の男の子に突然耳元で  
「ぼくと結婚しよう！」と  
言われて嬉しかった。（1年：Rさん）

6月の実習で、3歳の男の子の近  
くに座っていたら、  
「先生の隣はぼくのだ  
から！」と言われて嬉しかった。  
（2年：津川美月）

癒  
さ  
れ  
た  
一  
言

6月の実習でピアノの演奏を失敗し  
てしまった時に、5歳の子に  
「先生大丈夫だよ！」  
と声をかけてもらえて安心した。  
（2年：宮本花梨）

4月、外で一緒に遊んでいた3歳の男の子に「もう行くね」と言ったら、「ダメよ～、ダメダメ」と返された。可愛らしいと思った。  
(教員：T.T)

6月の実習の最終日に、年中さんのクラスで「また遊びに来ます」と言ったら、子どもから「絶対来てね！絶対ウソつかないでね！」と必死に言われた。後日、遊びに行ったらとても喜んでもらった。(2年：妹尾明希)

4月の実習の時、外で遊んでいたら大きなハチが出てきて怖いなと思っていたら、年中の女の子が「大丈夫、私が守ってあげる」と言われた。イケメンだと思った。(1年：多田有佳里)



### インタビューしてみた感想

子どもの年齢が同じでも、同じことを言っているわけではないので、皆さんの話を聞いていて勉強になりました。ほほえましい話が聞けた時は、思わず笑ってしまいました。

1年 鎌田春華

楽しそうに答えてくれる人がいると、周りの人が興味をもって話しかけてくれました。先輩と話す機会が増えて嬉しかったです。自分でインタビューしていると、「委員頑張ってるね」と応援してもらえたりして、皆で作っている実感が湧きました。

1年 岩井凜

知らない人にインタビューするのは生まれて初めてだったので、結構緊張してしまいましたが、一回話しかけると、次からは気楽にできるようになりました。無視されたり、面倒くさがられたらどうしようと思っていましたが、皆優しく快く答えてくれて嬉しかったです。今回ご協力してくれた皆様、本当にありがとうございました。

1年 栗山恵里奈



## 教員からのおすすめ

本学図書館には、各教員の専門分野や関心が一目瞭然の「推薦図書コーナー」があります。この連載では、その一端のみならず、教員から皆さんへの「おすすめ！」を紹介していきます。

第3回目は、学長の金子先生から皆さんへのおすすめです。

### PROFILE



#### 教員名

かねこ しげのり  
金子 重紀

#### 担当科目

日本国憲法、現代社会論

#### メッセージ

この本は、児童養護施設に就職を希望されている方だけでなく、みなさんに読んでほしいです。なぜなら、この本のテーマは、自分達の現実の中で、どう自分の意見を出していくか、広くは「自立とはどういうことか」、「自立と社会の関係は」、ということを考えてくれるからです。これから社会に飛び立っていくみなさん自身にも考える材料をきっと与えてくれると思います。

### 「明日の子供たち」

有川 浩 幻冬舎 (2008)

私のおすすめは、「図書館戦争」シリーズ、「三匹のおっさん」シリーズ、「県庁おもてなし課」、「フリーター家を買う」、などの小説を書いている有川浩氏です。

いずれも読みやすい小説です。また、ドラマ、映画、アニメにもなっており、みなさんも作品名については聞いたことがあるのではないかと思います。



「明日の子供たち」は、2014年夏に出版された作品で、児童養護施設を舞台に、新人職員と施設に入所している高校生が主人公です。

児童養護施設の問題点と希望を丁寧に描いています。私も12年ほど、千葉県児童養護施設協議会とのかかわりがあり、県内の児童養護施設、乳児院、母子ホームを毎年10か所ずつ訪問しています。その中で感じてきたことは、児童養護施設の子どもの18歳で自立を迫られる現実、施設を出た後の支援の薄さです。平成26年の統計では、一般の大学進学率は53.2%、児童養護施設児では12.3%です。また、一般の高校卒業者のうち就職するのは16.9%に対して、児童養護施設出身者では69.8%です（厚生労働省「社会的養護の現状について」（参考資料12ページ）平成26年3月）。

このような現実の中、舞台となっている児童養護施設の高校生たちが希望や不安を持って生きている姿が描かれています。そして、新人職員を通して子どもたちに職員がどう向き合うかが描かれています。

読みやすい本です。ぜひ、みなさんに読んでほしいです。



## ! hot news !

new movements of this month in meitoku

! 今月の明德速報 !

### 保育方法演習 (田中ゼミ) のフィールドワーク

田中 葵

7月12日(日)、身体表現をテーマとする田中ゼミは、身体を通してさまざまな方法で人と関わるため、フィールドワークに出向きました。初回となる今回の行き先は2カ所。

一つは、Dialog in the Darkという暗闇体験です。通常の暗闇では微細な光を受けて目が慣れ、だんだんぼんやりと物が見えてきますが、いつまでたっても目が慣れない、完全なる暗闇(目を開けても閉じても変わらない暗闇)の中に身を置きます。そして、見知らぬ人も含めた8人のグループごとに(ゼミの6名はばらばらに2名ずつに分かれました)、暗闇のエキスパートであるアテンド(視覚障がいを持つ方)のサポートのもと、森の中や縁側のある日本家屋を探索したり、草原に寝転がったり、背中合わせで隣の人と話したりと、暗闇の中でさまざまな体験をする90分間のワークショップです。1988年、ドイツで、哲学博士アンドレアス・ハイネッケ氏の発案により生まれ、全世界32ヶ国で開催されています。日本では1999年に初めて開催されました。私は5年前に体験し、今回が2度目でしたが、外の世界に対してふわっと開く自分の感覚を発見しました。それは、逆に言えば、見えることでわかったつもりで自己完結している普段の自分にも気づいた瞬間でした。

二つ目は、Eテレの「サラリーマン体操」や「てっぺん」などメディアでも活躍しているダンサーでもあり、ダンスカンパニー「コンドルズ」主催者でもある近藤良平氏の振付による新しい形の盆踊りです。老若男女300人以上が集い、関わり合いながら踊ります。盆踊りは、見ている人と踊る人との境界線がほぼなく、そして同じ動きの繰り返しだからこそ、見てるだけでもすぐに真似ができます。リズムカルな音楽に合わせて踊っているうちに、気がつけば無我夢中、汗だく。さらに、近藤氏の盆踊りは、フォークダンスのようにパートナーがどんどん変わっていくので、気がつけば初対面のいろいろな人と手を合わせて踊っています。これは、実際に自分の体をもって体験しなければわからない、高揚感と開放感、そして一体感です。近藤氏もおっしゃっていたように「ダンスの持つ力はすごいです 人の集う力はすごいです」。ゼミの活動としては、この体験を元に、学園祭(8月1日)で盆踊りを行う予定です。

二つ目は、Eテレの「サラリーマン体操」や「てっぺん」などメディアでも活躍しているダンサーでもあり、ダンスカンパニー「コンドルズ」主催者でもある近藤良平氏の振付による新しい形の盆踊りです。老若男女300人以上が集い、関わり合いながら踊ります。盆踊りは、見ている人と踊る人との境界線がほぼなく、そして同じ動きの繰り返しだからこそ、見てるだけでもすぐに真似ができます。リズムカルな音楽に合わせて踊っているうちに、気がつけば無我夢中、汗だく。さらに、近藤氏の盆踊りは、フォークダンスのようにパートナーがどんどん変わっていくので、気がつけば初対面のいろいろな人と手を合わせて踊っています。これは、実際に自分の体をもって体験しなければわからない、高揚感と開放感、そして一体感です。近藤氏もおっしゃっていたように「ダンスの持つ力はすごいです 人の集う力はすごいです」。ゼミの活動としては、この体験を元に、学園祭(8月1日)で盆踊りを行う予定です。



# 教職員&学生コンサート「明德はうたう」2015 夏

古山 律子

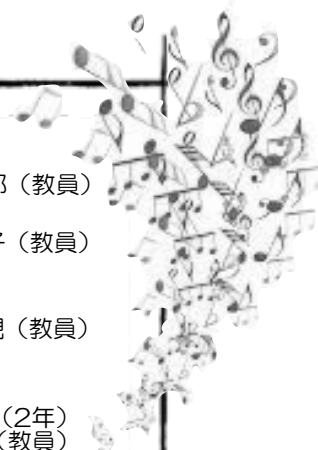
7月10日（金）の午後、授業「音楽表現とピアノ1」による学内コンサート「明德はうたう」が開かれました。この「明德はうたう」は、今年で3年目になります。音楽を専門とする教員によるコンサートが開催されるようになってからは5年目です。徐々にその輪を広げ、音楽を愛する教職員と学生も出演するようになりました。専門家の演奏を鑑賞するだけでなく、明德に集うさまざまな人々が、音楽や動きを通して、表現者としての喜びを感じている姿を目にすることは、私たち教員にとってもとても嬉しいことです。まだまだ継続していきたい会です。

## 第1部

1. 『春一番』『夏色』 ゆず 只野由依（2年）小久保圭一郎（教員）
2. 『よしの葉』 狂言舞 高森智子（教員）
3. 『カヴァティーナ』 マイヤーズ  
『ハナミズキ』 一青窈 小久保圭一郎・明石現（教員）
4. 『710』 Guitar and Contemporary Dance  
及川駿・佐藤愛里・中島美佳・角田加奈・蜂谷真由美・鎌形なつみ（2年）  
田中葵・明石現（教員）
5. 『美女と野獣/ホール・ニュー・ワールド』 メンケン 福中琴子・曾我桂子（非常勤教員）
6. 『Story』 AI 中島啓（2年）福中琴子（非常勤教員）
7. 『リベルタンゴ』 ピアソラ/加藤真一郎編曲 阿部友理（非常勤教員）古山律子（教員）
8. 『3つのプレリュード』 ガーシュイン 木村記子・曾我桂子（非常勤教員）

## 第2部

9. 『にじ』 新沢としひこ/中川ひろたか  
石橋怜子・川名真由・北村萌瑛・信田ますみ・橋本淳・平田夏望・卯月琳  
光山美里・太田結衣・川村実結・橋本沙那・土岐美穂・畑友有香・藤村梨華  
宮橋彩香・米田侑里佳・石橋真道・木下梨沙・高橋日菜乃・小山かえで  
町田恵美・山口万葉・櫻井未希・錦見陽子・早川いつみ・深山真由（1年）  
岸田美夏（2年）石井章仁（教員）
10. 『バタフライ』 石井満里菜・鈴木彩香（1年）
11. 『デイドリームビリーバー』 忌野清志郎  
『幸せハッピー』 細野晴臣 釣桃子・湯浅美幸（2年）石井章仁（教員）
12. 『青空』 THE BLUE HEARTS 光山美里（1年）金子重紀（学長）  
伊藤恵里子・鶴田真二（教員）
13. 『Over The Rainbow』 アーレン 釣桃子・湯浅美幸（2年）小出一豪（職員）
14. 『満月の夕』 ソウルフラワーユニオン  
荒井優奈・小木曾一公・妹尾明希・高尾麻衣子・平安洋一郎・山本恵美（2年）  
伊藤恵里子・高森智子・田中葵・鶴田真二（教員）
15. 『この星に生まれて』 杉本竜一/富澤裕編曲 全員合唱





# MEITOKU SNAP

## 「明德はうたう」特集





小林夢子さん（卒業生：43回生）が  
スペインに飛び立ちました！

2年生のフィールドワークで出会ったスペインに魅せられ、卒業して1年は働いて資金をため、この夏からスペインにしばらく住むことになりました。今後、彼女からスペイン便りが届きましたたら、随時掲載します。お楽しみに！



来てね！



## 明德の8月

1日（土）

▶ 学園祭

3日（月）～7日（金）

▶ 特別授業期間

9日（日）23日（日）

▶ オープンキャンパス

9日（日）23日（日）29日（土）

▶ 公開授業

20日（木）～25日（火）

▶ 教員免許状更新講習



### 編集後記

今号では、「学校」を飛び出し、様々な「現場」へと身を置き、「現場」から多くのことを「学校」に持ち帰ってきた学生の姿をお伝えしました。いかがだったでしょうか。学生が一生懸命になって体験してきたことを、体験後のふりかえりで言葉にする時、明德にはその体験の一つひとつが蓄積されています。その蓄積が明德を支えているのではないかと思います。また、田中ゼミのフィールドワークや「明德はうたう」にも見られるように、明德には学生と一緒にそれぞれの色で明德を彩る教職員の姿もあります。明德はこれからも、ここに集う一人ひとりが、様々な場面でそれぞれの魅力を放てる、色彩豊かな「学校」でありたいと思います。（鶴田）

### ★INFORMATION★

明德HPの「めいたんブログ」でも、明德の「今」を日々発信しています。ぜひご覧ください。

http://  
chibameitoku.blog53.fc2.com

発行：千葉明德短期大学

千葉市中央区南生実町1412

Tel:043-265-1613

Fax:043-265-1627

mail:tandai@chibameitoku.ac.jp

URL:http://  
www.chibameitoku.ac.jp/  
tandai.html

編集

田中 葵

鶴田 真二



読者の皆様へ：『月歩学歩』に対するご意見、ご感想を郵便やメールにてお寄せください。